

重症心身障害児（者）の抱きかかえ移乗介助における看護師の行為の特徴 ～【抱き上げ】【移動】【降ろす】動作を調査して～

多内留里子^{1)*} 永見梨絵¹⁾ 田中洋子¹⁾ 神農祐子²⁾ 奥田玲子³⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 3 病棟

2) 国立病院機構呉医療センター看護部

3) 鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座

Features of nurse actions in transfer assistance by cradling children and persons with severe motor and intellectual disabilities

- Investigation of lifting up, transport, and putting down actions -

Ruriko Tauchi^{1)*}, Rie Nagami¹⁾, Yoko Tanaka¹⁾, Yuko Shinno²⁾
Reiko Okuda³⁾

1) The 3rd Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing, NHO Kure Medical Center

3) Department of Fundamental Nursing, School of Health Sciences,
Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: 鳥取市三津 876 鳥取医療センター3 病棟

要旨

移乗介助は、患者の安心、安楽、安全を確保し、できるだけ快適に行うことが重要である。A 病棟の重症心身障害児（者）の筋緊張のタイプを側彎拘縮型、低緊張型、不随意運動型に分け、A 病棟の看護師が実施している抱きかかえによる移乗介助動作を無記名自記式質問紙によって調査した。その結果、重症心身障害児（者）に対する看護師の移乗介助行為の特徴が明らかとなり、常に骨折のリスクを考慮したうえで実施していたことが明らかとなった。側彎拘縮型患者の移乗介助では、側彎拘縮体位を保ち、関節可動域以上に負荷をかけないように手を添えて抱きかかえるようにしていた。低緊張型患者の移乗介助では、常に脱臼に考慮していた。不随意運動型患者の移乗介助は、患者の不随意的な動きにより落下したり、傷つかないように、常に不随意運動に対応できる体制で行われていた。鳥取臨床科学 10(1), 12-23, 2018

Abstract

It is important that transfer assistance is conducted to be as comfortable as possible for patients while ensuring their peace of mind, comfort and safety. The myotonia type of children (persons) with severe motor and intellectual disabilities at Ward A was divided into scoliotic contracture type, hypotonic type and involuntary movement type. We then used an anonymous, self-administered questionnaire of actions in transfer assistance by cradling as performed by nurses at Ward A. Results revealed the characteristics of transfer assistance by nurses for children (persons) with severe motor and intellectual disabilities. We found that nurses implemented such assistance with a constant awareness of the risk of bone fractures. When implementing

transfer assistance for scoliotic contracture type patients, patients were cradled so that their scoliotic contracture posture was maintained and nurses used their hands to avoid placing a burden exceeding the range of joint motion. Transfer assistance for hypotonic type patients was conducted with a constant awareness of dislocations. Transfer assistance for involuntary movement type patients was performed with a system for constantly responding to involuntary movements to prevent such movements causing falls or injuries. Tottori J. Clin. Res. 10(1), 12-23, 2018

Key words: 移乗介助, 抱きかかえ移乗, 重症心身障害児 (者), 筋緊張タイプ; transfer assistance, cradling transfer, children (persons) with severe motor and intellectual disabilities, myotonia type

はじめに

重症心身障害児 (者) のベッドからストレッチャー間の移乗方法には, 平行移動して移乗する方法と抱きかかえて移乗する方法がある. 近年では, 患者を抱きかかえたり持ちあげたりするのではなく, 水平に滑らせて移動できる介助用具が多く用いられているが, A病棟では, 以下に述べるように, 抱きかかえによる移乗を継続している.

倉田ら¹⁾は, 「重症心身障害児の移動介助は“ゆっくり” “やさしく” “ていねい”に行なう。」と述べている. A病棟では, 幼児期より入所している患者も多く, 体格が小さいことから, 抱きかかえによる移乗を主に行ってきた. 成長することで身長や体重も増加しているが, 拘縮や緊張, 不随意運動があり, 体格も様々で, 患者個々に合わせた対応が必要である. そのため, 抱きかかえによる移乗を継続して実施している現状がある. 抱きかかえによる移乗については, 抱き上げ・移動・降ろす動作で, 患者の筋緊張タイプや体格の違いに応じた方法を, 看護師個々の経験から得た知識によって判断している.

本研究では, 抱きかかえによる移乗介助をしている際の看護師一人ひとりの行動とその意図を言語化し, A病棟看護師の抱きかかえによる移乗介助行為の特徴を明らかにすることで, 新しく配属された看護師の教育に活用していきたいと考えている.

I. 研究方法

1. 研究対象

A病棟看護師 29 名 (師長と研究メンバー4名と妊婦 1 名を除く) .

2. 調査期間: 平成 29 年 8 月 5 日～平成 29 年 9 月 15 日.

3. データ収集方法

1) 調査の方法

- (1) 無記名自記式質問紙 (図 1) による調査.
- (2) 質問調査用紙 (図 1) はナースステーション内に回収箱を設置し, 1 ヶ月以内に個別投函により回収した.

2) 調査内容

(1) 基本属性

B病院の重症心身障害児 (者) の所属別到達目標において, 3年目までは看護の実践ができること, 4年目以降は看護について後輩に指導助言ができることを根拠とし, 研究対象者を, 重症心身障害児 (者) 病棟経験年数が0～3年の者と, 4年以上の者に分けた.

(2) 重症心身障害児 (者) 患者の移乗介助時に気をつけていること

重症心身障害児 (者) 患者の身体的特徴を踏まえ, 筋緊張のタイプを側彎拘縮型, 低緊張型, 不随意運動型に分け, 身長 (140 cm以上, 140 cm未満) 体重 (30 kg以上, 30 kg未満) による体格の違いで5つのタイプに分けて調査した.

①移乗時に手で支える部位を (頭, 後頸部, 肩, 背部, 腰部, 臀部, 大腿部, 膝窩部, 下腿部) から選択し, 回答してもらった. 介助人数が2名 (移乗時に支えるのは, 上半身と下半身)